

広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 森 冬人



「子どもと新型コロナ」

新型コロナの流行前から、診療所の医師は福島医大の先生方とオンラインで勉強会をやっています。最近、さらに様々な会議や勉強会もオンライン開催に移行し、都会に行く手間も減り、とても助かっています。私の知人には只見と同じくらいの田舎に住みながらイギリスのオンライン大学院で勉強する医師までいます。田舎でもやる気があれば学べる環境になってきたのは嬉しいですね！

さて、ご存じの方も多いかもかもしれませんが、子どもは大人と比べると新型コロナで重症になることや亡くなるリスクがかなり低い事がわかっています。世界的に保育所や小中学校でのクラスター（患者の集団発生）も少ないです。

子どもの場合でも、基本的な感染対策を続ける必要はあります。密な空間を避ける、手洗いをする、流行地域へ行かない、熱があれば学校を休み人と会わないなどです。ただ、新型コロナへの感染を怖がり極端に外出を控える害も指摘されています。以下のような事をオススメします。

- ① **乳幼児健診を忘れず受ける**
- ② **予防接種は予定通り受ける**
- ③ **学校に行く・自宅外の人との交流・活動がある程度保つ**

子どもの心身の問題を知る事、育児不安の相談を受ける事など、乳幼児健診は貴重な機会です。また、各種の予防接種も重症化・合併症の予防にとっても大切です。

ちなみに今年10月1日からはロタウイルスワクチンが定期接種（全額公費負担）になります。対象は今年8月1日生まれの児からです。詳しく知りたい方は保健福祉課へご相談下さい。乳幼児には新型コロナ以外にも心配な感染症が多くあります。ぜひ遅らせずに予防接種を受けましょう。もちろん朝日診療所で乳幼児の予防接種は実施できます。

また、都会では新型コロナの感染が怖くて子どもの登校を控える方もいるそうですが、学校に行くことや自宅の外で活動することは子どもの発達や精神的な安定に重要です。感染対策にも配慮しながら、適度に外の活動も続けることをオススメします。

地域おこし協力隊として vol.69

只見町観光振興協力隊

よこやま よしみ
横山 儀巳



「46年ぶりのUターン」

円形校舎の旧只見中学校卒業を機に只見を離れ、この4月に46年ぶりにUターンして戻ってきました。自宅のある神奈川県から単身赴任し、実家の館ノ川へ移住することとなりました。コロナ渦の関係で「神奈川県から」が気になるころだと思いますが、Uターン前は会津若松に単身赴任し居住していた関係で、神奈川県へは半年以上往来していない状況です。

只見を離れるまでの当時の館ノ川にはたくさんのお店と、大勢の子ども達で賑やかでしたが、今はそのお店も無く、子供たちも少なくなりましたが、区民同士の絆がそのままだったことが嬉しく、また安心もしました。

只見を離れて、歳を重ねるごとに只見の良さを感じるようになり、60歳の節目を迎えて以降、何らかのかたちで地元に関わる活動、仕事ができれば

との漠然とした想いを抱いていたところに「地域おこし協力隊」の募集を目にし応募させていただき、この5月より駅前庁舎の観光商工課に採用となり、主に道の駅の立ち上げと観光振興に関わる業務を手伝っています。

道の駅整備については、「地域ぐるみ、町ぐるみ」で計画を進め、「地域資源を活かした観光交流拠点」と「地場産品を活かした地域振興拠点」をコンセプトにしています。只見にはいわゆる“大観光地”はありませんが、キラリと光る地域資源はたくさんあります。“森・水・土・光・雪・鉄道・伝承産品そして人”、その地域資源を活かしつつ、町民に親しまれ、町民が集える道の駅を目指し、協力隊として少しでもその力になれるよう取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。